



The Association of Liquid Filtration and Purification Industry

# LFPI News Letter

Autumn 2012 No.61

## 大局見極め布石を打つ 「出来事が起こる背景を読み、未来を予測する」



昨年度流行語となった「想定外」という単語が今年もまだ続いているように、政治も、経済も、気候も、目を疑うほどの大事件となって、入れ代わり立ち代わりマスメディアに取り上げられている。

そんな世の中で、間もなく古希を迎えようとしている私ですが、従前と違う大きな異変を感じている昨今です。

歴史は繰り返すという言葉もありますが、私が色々調べた中では、70年周期説に大変共感を持つようになっております。何故なら歴史とは、ランダムな出来事の連続により創られるものではなく、同じパターンの物語の繰り返しにより創られているという認識でおります。

ひとつひとつの出来事の背景に大きな物語が存在すると考えたなら、ひとつの出来事から時代が流れていく方向を見極めることが出来る。

今更ながらと思いながらも、重視したくなるのは「個々の出来事」よりも、時代の流れを読み、出来事が起こる背景を考えるように極力意識しております。

例えば川の流れの中で、目の前の大きな岩や、渦巻きだけを見ているとそれが現れる度に慌てふためいてしまう。船を漕ぎ進めるうちに、障害に出合うのは当たり前です。重要なのは、どこに川が向いているのかという大きな流れ、それが分かって初めてどう舵を取るか決まってくる。その結果、余裕を持って景色を楽しむことが出来るし、予想外の出来事をきっかけに、却ってスピードを増すこともできる。自分が生きている時代がどの方向に流れているのかわからなければ、毎日が格闘になる。「何故こんな仕事をやらされているのか」、「こんな勉強、何の役に立つのか」と不満に思うことばかり。

しかし、未来へ向かう流れが見えた途端、目前の仕事が意味を持ってくる。同じ仕事でも面白くて、面白くて、たまらなくなり、毎日がワクワクの連続になる。

予想が当たれば「時代の流れは正しかった」と確認出来るし、外れても「なるほど、時代の流れは向きを変えたな」と修正出来る。つまり、予想することで予想外の出来事に備えられる。

ただし、時代の流れを理解しながらも、未来をどう描くのかという強い意志を持ち続けなければ意味も半減してしまう。未来とは選択であり、それは自分の意思によって実現されるものと思う。

今、時代の大きな変わり目ともいわれている日本国としては、まさに70年目の大変革の時を迎えていると思う。

次々に発生する国難ともいべき障害を、国民ひとりひとりの知恵や、得意の組織力を生かして越えなければいけない。また、その事を通して世界の人達からも尊敬されるような日本国民でありたいと願っている。

末筆ながらLFPI御参加各企業殿の御繁栄を心より御祈念申し上げます。

株式会社 ニシヤマ

常任顧問 水島英彰

## Rio+20のサブイベントに参加して

ブラジル・リオデジャネイロに191の国・地域の代表や市民、企業関係者ら5万人が集まり、国連持続可能な開発会議(Rio+20)が6月20日～22日に開かれました。

Rio+20の会議場リオセントロに隣接するアスリートパークにサブイベントとして各国パビリオンが設けられ、その中の日本パビリオンに出展した国際連合工業開発機関(UNIDO)のブース展示の説明員として6月18日から23日まで6日間参加しました。今回、UNIDOは日本の中小企業の優れた環境技術を6社選定し、私はアクアテック㈱の排水処理技術である「ジャリッコ」の南米地区への販路拡大の目的で、ブース訪問者に技術の紹介、カタログ配布、DVD配布及び交流会場でのプレゼンテーションを行いました。

すべての対応は英語で行い、通訳はなしという条件で、これもUNIDOから我々中小企業が世界に情報発信する際の課題を与えられたようにも感じました。ブースへの訪問者は各国の環境関連の要人や機関、NGOなど各国環境問題関係者、またブラジルの環境関連会社等、外国人訪問者55名、日本人訪問者24名が訪れました。

訪問者のなかには、3度もブースを訪れてくれた若い研究者や、水の専門家という博士号をもった中東の国の環境相、ブラジルの州知事、川口順子元環境大臣、ブラジルの環境関連会社等いずれも熱心にこちらの説明を聞いていただきました。水の環境に対する人々の関心は高く、工業化や都市化に伴い水環境が悪化している状況は先進国も発展途上国もまさに同じ問題を抱えているという印象を持ちました。

国際展示会というと確かに言葉の問題があり、当初ハードルは高いように感じましたが、事前に英文を整理・暗記して、技術の説明は簡潔にポイントを押さえた説明に努めました。UNIDOに事前に作成していただいたDVDやパネル展示、こちらが用意した英文パンフなどツールも活用して各国への情報発信ができたと思っています。

印象としては、世界各国の人々が集まる華やかな雰囲気の中で「ジャリッコ」というブランドを多くの人たちに少しでも知っていただき、交流ももてたことはまたとないいい経験になりました。今後は、特に、日本の中小企業の若い世代が海外市場への強い関心と動機を持って積極的にチャレンジする機会を作ることが必要で、日本の技術を埋らせないため、また、世界市場を見据えて発展させるためにも人材育成と国際展示会への出展をお勧めしたいと思います。

帰国から約3週間たち、訪問お礼のメールに対して、返信のメールが10件近く入っていて、今後ジャリッコを世界に広めるきっかけづくりとなることを期待しています。また、帰国後、参議院が開かれてご多忙の中、川口順子参議院議員にお会いでき、海外普及に対する我々の想いを聞いて頂き感謝しております。

(2012年7月 国際交流委員 サンウェル株式会社 藤井 義隆)



展示ブース



日本からの参加者一同



ブースでの説明



プレゼンテーション



川口元環境大臣を訪問

# 第14回LFPI基礎実験講座報告

## 1.開催日時及び会場

関東開催：平成24年9月6日(木) 13:00~18:30 横浜国立大学 工学部

関西開催：平成24年9月11日(火) 13:00~18:30 東洋スクリーン工業(株)

## 2.講座内容

- ①基礎的事項の説明
- ②実験と解説 テーマA:「凝集反応」 テーマB:「オゾン酸化」
- ③総括、質疑応答、その他
- ④技術交流会

## 3.報告

今回の基礎実験講座は真夏の暑さが残る9月初旬の関東は6日、関西は11日に開催されました。実験講師にはハイモ株式会社の米本 亮介氏、米倉 温氏(関東)、坂主 良介氏(関東)、本目 淳朗氏(関西)と株式会社ロキテクノの野村 亘氏、町田 一馬氏と鈴木 信吾氏をお迎えし、関東は7名、関西は6名の受講者にて実施されました。

実験内容としましては、テーマAの「凝集反応」では始めに無機凝結剤と高分子凝集剤を用いた凝集反応理論の解説を受け、実験では砂利洗浄水をモデル液として、種々試験を行いました。その結果、凝集反応には最適薬剤添加量があり、過剰添加では所定の凝集状態を得られないということを学習しました。

テーマBの「オゾン酸化」ではウーロン茶にオゾンガスを導入し、その脱色現象を確認いたしました。オゾンガスの濃度や導入方法を変えることで、脱色程度に差が起きるために適切な濃度と量を設計することが重要であることを学びました。

講座後の技術交流会では講師の皆様を交え、日頃の疑問点などについていろいろと議論できました。今後も液体清澄化技術に関する教育の場として本講座を活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、会場を提供して頂きました横浜国立大学ならびに技術交流会にご支援いただきました東洋スクリーン工業株式会社殿に深くお礼申し上げます。

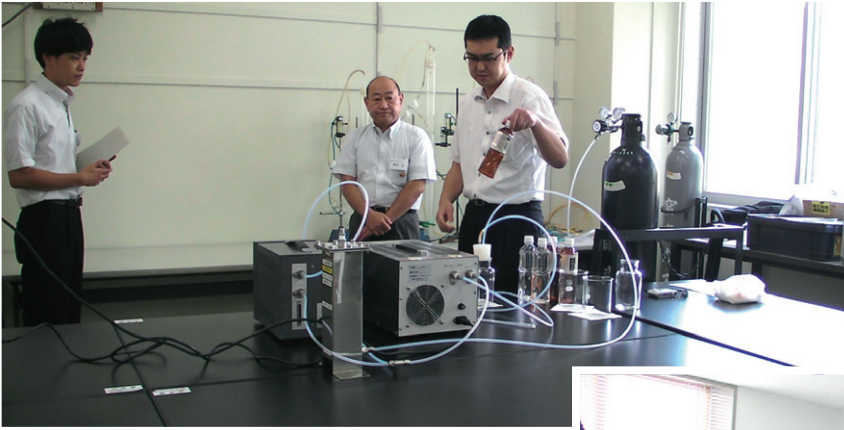
(技術委員会)



横浜国大での講座スナップ



横浜国大での講座スナップ



横浜国大での講座スナップ



東洋スクリーン工業でのスナップ



東洋スクリーン工業でのスナップ



東洋スクリーン工業でのスナップ

## 第21回LFPI青年部会 研究会-製品説明会-

ロンドンオリンピックで賑わっている8月の暑い最中、浜松町の東京都立産業貿易センターにて『第21回LFPI青年部会 研究会-製品説明会-』と銘打ち、LFPI参加企業による、小規模な展示会を実施した。

主な目的は、各会員企業の若手人材における製品PRトレーニングの場として、プレゼン力の向上や、日頃からお付き合いのある工業会の他企業の情報収集とした。

このようなPRトレーニングといった取り組みは青年部会としては初めての試みだったので、参加企業集めや会場確保など事前の準備に時間を取られることがあり、日ごろの営業活動に支障が出ない範囲で調整しながら開会までこぎつけることができた。

製品説明会という名前の性格上、来場者数を求められることが多いので数字だけ報告すると、結果として来場者は出展社、見学者合わせて50名を少し超える程度となった。当初はプレゼンをする者同士で互いに話を聞きあう会になるのではと不安な部分もあったが、出展参加者の思惑がそれぞれあったようで想像以上の来場者だった。

説明会も終了し、交流会の時間にプレゼンを实际行った方に質問したところ、会社の方が客席に座っていたので緊張したとか、資料を調整するのに戸惑ったといった回答があり、時間の制限、対象(聞き手)のイメージなどにより説明する内容を吟味できたか、各自で今後活かしていただきたいと感じた。

当日のプレゼン内容は以下の通り(敬称略)

株式会社 アースプロテクト	ディスク型散気装置 スーパーディフューザー
大塚実業株式会社	濾過布
株式会社 クボタ	浸漬型膜分離装置「液中膜」
株式会社 トーケミ	アクティブファイバー
アルファラバル株式会社	デカンタ遠心脱水機
ミウラ化学装置株式会社	ウルトラフィルター
神奈川機器工業株式会社	ノッチワイヤーエレメント
株式会社 ニシヤマ	機能性樹脂タンク
晃栄産業株式会社	ドナセレック
JNCフィルター株式会社	CPフィルター
富士フィルター工業株式会社	フジプレート
東洋スクリーン工業株式会社	ファインウェッジワイヤースクリーン

最後に、今回の催しに賛同して出展していただいた企業各位と準備に追われた青年部会メンバー、事務局の皆様にご挨拶申し上げます。

〈青年部会〉



技術交流会スナップ



製品展示スナップ



製品説明スナップ



製品展示スナップ



## ＜串カツ屋＞

何をつぶやくか考えた。かの源氏物語に「いつの程に積もる御言の葉ならむと、つぶやく老人どももあり」とあり、ならば熟年の憩いの場、立ち飲み屋の話をつぶやくべきと閃いた。とは言ってもこれからつぶやく店は熟年向きに座るべき椅子がある。ただきわめて座り心地が悪い。座ることができる以上居酒屋と呼ぶべきかも知れない。そんな大阪にある、串カツ屋のことをつぶやいてみる。

この店は大阪難波にある。カウンターの向こう側、かつては妙齢の女性たちであったが、今時は20代の留学生である。結果、立ち飲み屋はガールズバーに変貌する。これをわびしく使うか、ハッピーに使うか、それはあなた次第である。

それでは初心者向け、串カツ屋ガイダンスをしよう。まず、のれんをくぐると「いらっしゃいませ」といわれる。誰しも最初は一見さんである。静かにカウンター席に座ろう、まかり間違ってもテーブル席に行ってはいけない。そして、ほとんどの人が注文するように生中を注文しようではないか。次に「おあては？」と尋ねられる。「あて」とは酒の肴のことである。そこで、串カツ、玉ネギ、エビなど好みのものを3本ほど頼む。揚げたてを食べるためにも一度にたくさんの注文はいけない。「あて」がくるまで、カウンターの上にあるキャベツをソースにつけて食べながらビールを飲む。キャベツはフリーでおかわり可、いくら食してもお金を請求されることはない。数分のうちに揚げたての串が来る。そして、ローカル文化からメジャーに変わりつつある、「2度づけ禁止」のルールに従って、串をソースに浸して食べる。

次回、2度目ののれんをくぐる。運よく店員さんがあなたを覚えてくれていると「まいど」と言ってくれる。そうなれば、もうここから常連さんである。今回は瓶ビール(大瓶)と串を注文して、ゆっくり飲むのもよいかもしれない。ただ、この時忘れてはならないのは店員さんの名前を聞いておくことである。次回から名前を呼んで注文をしようではないか。そして、彼女の仕事の合間をうまくみて、大いにコミュニケーションをはかろう。彼女たちの母国語を習うのもよいと思う。そのような中で常連さんたちとも顔見知りになり、世間話をするのもこれからだ。



さて、あなたはもうお気づきであろう。ここでは何の肩書きもいらないし通用もしない、フラットな場所であること。そして、それぞれのテリトリーを侵さないことが暗黙のルールである。また、異国の地から来たカウンターの向こう側の彼女たち、一見の客ならともかく、常連になるならぜひ彼女たちから信頼を得たい。彼女たちは鋭い洞察力をもって客に接している。あなたが信頼できる人であると感じ取ってくれたとき、よりハッピーな立ち飲み屋ライフが過ごせる。そして、彼女たちが帰国し、あなたがその国を訪れることがあれば、きっと温かく迎えてくれるにちがいない。

ぶつぶつぶつ・・・

(次回のつぶやきに続く)



## ネクストビジョンを語る(5)

株式会社 マキノ 牧野 宏昭

ネクストビジョン検討委員会が発足して2年が経過しました。本委員会は、液体清澄化技術の環境変化、グローバル社会、リーダーシップ、人材育成など明日の姿を検討することを目的にスタートしました。委員会は2~3ヵ月に1度のペースで、中村先生をかじ取り役として、参加した同世代のメンバーと意見交換してきました。私自身も自社の状況と照らし合わせながら方向性を確かめることができ、大変貴重で多くの刺激を受けました。特に、各社とも人材育成は最重要課題であるにも関わらず、なかなか進まない、当然ながら技術伝承も行われぬ、その他、企業の海外進出、少子高齢化、社会構造の問題など多くを話し合いました。その答えは各自が考え、感じ取ったのではないのでしょうか。途中、東日本大震災とそれに続く福島原発事故が起こり、検討内容に割く時間も多かったと思います。また、震災復興・原発事故後の除染に際し、水に関わる当工業会としても様々な側面から貢献出来るはずであり、今後どのような展開になるか、工業会も各社が横の繋がりを持って取り組んで行かなければならないと思います。

その原発に目を向けると、今夏の関西電力管内の電力は、火力・水力・揚水・地熱・太陽・他社から融通しても不足すると発表され、連日バッシングを受けたにも関わらず、大飯原発3、4号機を再稼働させました。しかしながら、マスコミによる危機感の醸成、エコ商品の普及、節電意識の高揚により想定90%以下の電力需要に留まり、再稼働の必要性はなかった結果となりました。そして、9月に入り「2030年代に原発稼働ゼロを可能とする」と今までとは相反する目標を政府は掲げました。民意が政治や経済の枠を超えて受け入れられたものと思います。今後、このネクストビジョンは本当に達成出来るのか注目されるところです。ただし、これを機に再生可能エネルギーのさらなる増加と技術革新が起こり、新しい産業活動も創造されることになると思います。

本委員会や原発事故を通して見えるものは、今置かれている状況や外的要因によって描くネクストビジョンが各々違うことであり、そのネクストビジョンに向かって我々は進んでいるのか、時に立ち止まり確認し、環境の変化により大幅な修正を余儀なくされることもありうることを認識して行かなければならないことです。また、現時点で描くネクストビジョンは正しくても、次の瞬間には陳腐化しているかもしれないことを常に意識していることが重要であり、そこで生れる新たなビジネスチャンスをしっかりキャッチすることも必要と思います。

最後に中村先生、参加されたメンバー皆様に感謝するとともに、新たなネクストビジョン検討委員会が発足され、情報が発信されることをお願いしたいと思います。



## 広報委員のオフタイム

この回より、広報委員のオフタイムがスタートします。さて、オフタイムとは「休暇、休み」と定義されているようです。休日に限らず、朝のひと時、通勤中なども人によってはオフタイムとして過ごされている方も多いのではないのでしょうか。どの時間をもってオフタイムとするかは人それぞれですが、私のオフタイムは週末など、やはり会社に行っていない時間になります。何をしているかという、私はバンドブーム世代でして、今でも下手な横好きでギターを弾き流しています。当時、弾き始めの頃は、何時間もそれに没頭して、無心



写真1

とか、邪まな思いもありましたが、間違いなくギターを弾いている時に他のことは一切考えていなかったと思います。しかし社会人になり、いつの頃からか弾き流している程度だと、弾きながらでも仕事のことが、気になったりすることが多くなりましたが、ある時、怪我によって左手の指が上手く動かなくなりギターが弾けなくなった時期があります。ギターは通常4本の指を主に使って弦を押さえて音を出すため、当然、指が動かないと弦を押さえられなくなり弾けないのです。しかしギターは弾きたい・・・スライド奏法を始めました(写真1)。これは指で弦を押さえるのではなく、指にスライドバー(写真2)という筒(金属やガラス)をはめて弦の上でそのバーを横移動(スライド)させるだけで音程を変えメロディーを作っていきます。これがやってみると楽しいのです。スライドバーと弦の擦れる音、音程と音程に区切りが無いことから普通の指弾きには無い感覚があります。スライド奏法を始め始めた頃は、全てハワイアンな感じになってしまいましたが、音を如何に止めるか(ミュート)のコツを掴むことでブルースっぽくなり、音そのものが心に沁みる感があるのです。よく人の声に近い音とも表現されます。このスライド奏法をやっている時間は、没頭していますね。なぜか? 惰性で弾き流すことから、どう



写真2

やったら気に入る音ができるかを考えながらやることで、上手い下手とは別に、新たな楽しさを思い出させてくれたかと思います。音楽は文章ではなかなか表せないなので、ぜひスライドギターの曲をYoutubeなどで視聴してみてください。「Slide guitar」で検索すると色々出てきます。また日本では認知度が低いですが、アメリカでは某音楽誌の歴代トップ100ギタリストのNo.10に選ばれたデュアン・オールマン/Duane Allman (Allman Brothers Band) が弾いているオールマンブラザーズバンドの必聴アルバム Live at Fillmore East、とスライドギターといえばこの人、ライ・クーダー/Ry Cooderのアルバム、ゲットリズム (Get Rhythm)、日本だと内田勸太郎(優歌団)がお勧めです。

〈エンドレスハウザー・ジャパン株式会社 山本 和彦〉

## 名著紹介

推薦者：堀田テクニカルコンサルタント

堀田 正見



### 「水道の文化 ー西欧と日本ー」

鯖田 豊之 著

発刊日：1983年10月25日

価格：¥980(税抜)

分類：上・下水道 位置付け：教科書、教養書

人間の密集する都市が発達するにつれて飲料水の確保、糞尿の処分が最も切実な課題になってくる。本書は近代的上・下水道が出来上がるまでにどのような苦悩があったか、西欧と日本の各時代の特徴を深く掘り下げると同時に、両者の対応がいまなお対蹠的な事を指摘している。なかでもコレラなど伝染病は上水道から伝わるかどうかの長年にわたる議論、日本の玉川上水の話、終末処理場のシステムは西欧が日本より劣っているなどなど、技術者は勿論多くの人に読んでもらいたい一冊である。



### 「江戸上水道の歴史」

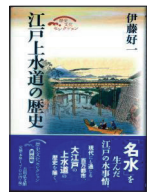
伊藤 好一 著

発刊日：2010年10月20日

価格：¥1,700(税抜)

分類：上水道 位置付け：教科書、教養書

城下町江戸の建設過程から主要六上水の開設経緯までを述べると共に、水利用と水質および水問題における江戸と村との関係を考察している。江戸水道の経営・管理では享保改革期(幕府財政再建の時)に江戸の上水の在り方が大きく転換したことが記されている。本書は一般書であるが多くの裏付け資料により記されており、貴重な書籍である。



### 「ウンチとオシッコはどこに行く」

上 幸雄 著

発刊日：2004年12月20日

価格：¥1,600(税抜)

分類：下水道 位置付け：教養書

著者は、日本トイレ協会の理事長で世界並びに日本におけるトイレ事情について記載しており、自分の趣味である登山を通して各国のトイレの社会的位置づけや今後の在り方について考察している。



### 「水ビジネスを制するための標準化戦略」

滝沢 智 著

発刊日：2012年6月15日

価格：¥2,800(税抜)

分類：上・下水道 位置付け：ビジネス

本書はマスコミ等で話題の世界的に巨大市場を持つ水ビジネスにおいて、我が国が確実にその市場を獲得して行くための一つの手段として「国際標準」を活用する方策を提言している。その一つはこの分野において我が国の産業の真の国際競争力に資すること、二つ目は今後JISとして国内にも適用され事例が増えると見込まれる。このことは、WTO/TBT協定の影響もあるが、むしろ成熟化時代の国内の上下水道事業が今後も発展していくための必要不可欠の要素であるとしている。「標準化」を主張した本書は、まさに国際水ビジネスの戦略論に新たな一石を投げようとしたものである。



## 第16期第2回理事会報告

2012年6月14日(木)、今期第2回目の理事会が、かながわ県民活動サポートセンターにて開催された。

10名の理事会関係者が出席、5名の理事が欠席のため委任状が提出された。

議事内容は前回議事録の確認に引き続き、幹事会報告が行われた。各委員会報告は技術委員会、広報委員会、国際交流委員会、総務委員会、環境・エネルギー委員会、規格・標準委員会、青年部会の順に行われ、報告に基づき活発な意見交換がなされた。今年は4年に1度のシンポジウムの年であるが、1日開催であれば3件ほど

の講演で良いのではないかと意見が出された。又、総会は時間かかるため、地方からの出席者を考慮して1時間くらいに短縮して少し遅い開始時間が良いとの話が出た。事務局からの第16期会計の中間報告は特に問題は指摘されなかった。年3回ほどの理事会は開催期間が開いているため、その間に開催される幹事会や各委員会等の資料も多く50ページ以上になる場合も多々ある。次回理事会は、総会・シンポジウムを控えて9月28日に開催されるが、第16期会計報告や第17の予算、各委員会の17期予定などを検討する予定である。

<事務局 卜部 兼好>

## 会員情報

★現時点での会員数は135（名誉会員、協力会員、個人会員、特別会員を含む）です。  
（H24年10月16日現在）

### ◆入会会員

協力会員  
大阪府立大学 岩田 政司

### （推薦者）

中村 一穂 氏

## 編集後記

猛暑も過ぎ、天候が落ち着いてくると、夏ばて気味だった食欲が復活してきています。秋は日本酒がおいしい季節。ビールもワインも美味しいし、焼酎もウイスキーも美味しいですが、秋のお酒はやはり日本酒ですね。ワインも良いですが、やはり日本の季節感を一番醸し出すのが日本酒。こうなると、蕎麦や舞茸などのキノコ、秋刀魚など、季節の食との組合せによって、さらに盛り上がります。どれを取っても日本酒との相性抜群。季節感とは時間によって洗練され受け継がれて来たその土地の文化の一つで、日本では「清水」が全てにおいて受け継がれ、水道水の「清」レベルは高いです。こういった国内で洗練された水処理技術を世界に広め、更に洗練された食文化も伝えたい。世界に技術と文化を伝播する一役を LFPI が担う・・・そんな秋の夜長の夢を見つつ、微力ではございますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

〈エンドレスハウザージャパン株式会社 山本 和彦〉

◆ 編集／発行：日本液体清澄化技術工業会 広報委員会  
◆ TEL (042) 720-4402 FAX (042) 710-9176

◆ 住所：〒194-0032 東京都町田市本町田2087-14  
◆ LFPIホームページ <http://www.lfpi.org>